

鉢窪山遊歩道に案内版

活性化委と学生 整備総仕上げ

伊豆市湯ヶ島の鉢窪山遊歩道で23日、はちくほ山活性化委員会を中心とした住民と学生ら約20人が道案内板設置や草刈り、植林などの整備作業に取り組んだ。湯ヶ島地区地域づくり協議会による鉢窪山での「草土の見える遊歩道整備事業」の総仕上げで、今後は遊歩道を維持・管理して



遊歩道沿いに道案内板を設置する委員会メンバーと学生ら＝伊豆市湯ヶ島

いく。遊歩道の利用者が増えていることから、迷わずに山頂まで往復してもらえるように、新たな道案内板の設置を決めた。「遊歩道山頂に至る」と記し、矢印を入れた20枚を用意して、ハイカーの意見も踏まえて迷いやすい分岐点などに立てた。また江戸時代に公用以外での伐採が禁じられていたスギ、ヒノキなど7種類の木七木」の説明板も設置し、遊歩道沿いになかったクスノキ、サワラ、シラカシ、アカマツの苗木を植えた。クスノキは茅野地区と連携する静岡大から寄贈されたという。作業には同大理学部の3、4年生と大学院生、早稲田大生も参加し、住民との交流を深めた。静岡大3年の若月友太さんは「微力だが地域の人たちの手伝いができるのはうれしい」と語った。同委員会の山本一彙委員長は「コロナ禍もあったが、いろいろな人の協力があつてここまで整備できた」と感謝した。